

# 東高 国際だより

令和元年10月15日  
京都府立東舞鶴高等学校  
国際教育部発行

2019 vol. 6

## 3年国際文化コース 稲刈り実習（9月11日）

5月に田植えをした苗が立派な稲穂を実らせました。天候の関係で、例年よりも稲の生育が早かったため、事前に、地元農家の椋本さんが大半を収穫してくださっていました。おかげで、生徒たちは脱穀も体験することができました。収穫したお米は、10月下旬の収穫祭でいただきます。楽しみです！

### 感想

稲刈りの際、多くの虫を目にしました。栄養を含むお米だから集まってくるのかなと思ひ、自然の豊かさをひしひしと感じました。また、お米は、多くの苦労や努力があるからこそ、おいしくいただけるのだと実感することもできました。

収穫祭では、この「紫黒米」と普段食べているお米との違いを感じながらいただきたいです。

小野 万葉（白糸中出身）

以前は、田植えや稲刈りは、全て手作業で行っていたということですが、現在では機械で作業をします。スムーズに失敗なく行うことができるように設計されており、科学技術のありがたみを感じました。

この体験を通して、稲作に携わる人のように、何か人の役に立てるようなことをしていきたいと思いました。

中村 恭輔（青葉中出身）



## 2年国際文化コース

### 京都府国際交流員及び名誉友好大使との交流会（9月26日）

京都府国際交流員と京都府名誉友好大使の6人をお招きしました。出身は、イギリス、フランス、イタリア、インドネシア（2人）、香港です。交流会では、文化祭で披露した”A Whole New World”を歌ってお迎えしました。その後は、6グループに分かれて、東高、舞鶴、そして日本文化を紹介しました。校内を案内したり、出身国について質問をしたりしました。ジェスチャーを交えながら、英語でコミュニケーションを図りました。



日本のゲームを楽しんでいた  
だいているところです。

図書室を案内しました。



## 日本のええトコ教えて

このコーナーでは、日本の素晴らしい文化や観光地などを、東高の先生がリレー形式でお届けします！  
**第6回 廣瀬 邦彦 先生（社会科）**

皆さんは奈良の「お水取り」は知っていますか。

「お水取り」は東大寺に二月堂で毎年3月12日に実施されるお祭りです。深夜、若狭井からくみ上げられる水は、若狭国（福井県）から地下を通って送られてくる神聖な水とされ、くみ上げた水はお寺に奉納されます。それを準備するために多くの神秘的な行事が必要で、毎年多くの観光客が楽しめます。

ところで、お水をとるならどこから送らないといけません。それが福井県小浜市の神宮寺で行われる「お水送り」です。毎年3月2日の深夜、神宮寺から何十本もの大松明と何百（何千？）本もの手松明の行列が、2km程上流の「鵜の瀬」というところまでつづきます。暗闇にのびる松明行列はまるで大蛇のようです。鵜の瀬では巨大な護摩壇から立ち上った煙と法螺貝の音の中、神秘的な儀式が行われ、僧侶がお寺から持ってきた神聖な水を川に流します。この水がひと月以上かけて地下を流れ、東大寺の若狭井に至ると信じられています。

この「お水送り」も近年は観光化されて、たくさんの観光バスが集まるようになりましたが、ぜひ一度体験してほしいお祭りです。



（※写真：「若狭路おばま観光協会」より）

## 夏に留学をした東高生の紹介（アメリカ編）



2年堺谷太陽君（白糸中出身）に2週間の語学留学についてインタビューしました！

なぜ留学をしようと思いましたか？

以前、僕の家ホームステイに来た韓国人学生と知人が韓国語で会話しているのを目にしました。それを見て、外国人とスムーズに会話できたらなあと思ひ、英語力を伸ばすために留学することを決意しました。

語学学校での様子を教えてください。

授業は、先生が用意したテーマについて話し合うことが多かったです。一番印象に残ったのは「地球の環境問題を解決するとしたら、どれが一番解決したいか」というものでした。座って聞くだけではなく意見交換をすることが多かったです。

アメリカで、日本とは違うなと感じたことはありますか？

現地の人達はとてもフレンドリーでした。ユニバーサルスタジアムでは、初めて会った人が、僕の服装の柄を気に入ってくれて、ハグをしてくれました。



ロサンゼルス  
ドジャースタジアムで記念撮影

「国際だより」は下のQRコードからもアクセスできます。

